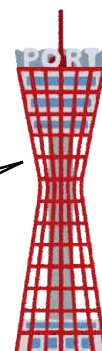


第19回全国障害児学級&学校 学習交流集会 in 兵庫

今年もみんなで学べる



期 日：2020年1月11日（土）
～13日（月）

会 場：全体会 神戸芸術センター（JR新神戸駅前）
講座・分科会 神戸市勤労会館（JR三ノ宮駅前）
新長田勤労市民センター（JR新長田駅前）
フォーラム 神戸市勤労会館（JR三ノ宮駅前）
全体交流会 神戸サンポーホール
（ポートライナー貿易センタービル駅前）

参加費：3,000円（一日のみ参加は2,000円、全体交流会6,000円
フォーラムのみ参加1,000円 保護者・学生は500円）

11日 (土)		12:00	13:00～16:30	18:30～
		受付	開会全体会 現地企画 記念講演 赤木和重さん(神戸大)	全体交流会
		神戸芸術センター		サンポーホール
12日 (日)		9:30～11:20	12:40～17:00	18:30～
		・てんこ盛り講座 ・文化バザール ・特設フィールドワーク	・基礎講座 ・旬の実践分科会	交流会(各県ブロック・ 青年・障害児学級)
		神戸市勤労会館・新長田勤労市民センター		
13日 (月)		9:30-12:00		
		教育フォーラム		
		神戸市勤労会館		

主催：全教障害児教育部・教組共闘連絡会・現地実行委員会
【お問い合わせ】TEL 03-5211-0123 FAX 03-5211-0124

1 / 1 1 (土)

全体会 13:00~16:30

◇ オープニング

◇ 養護学校義務制40年企画 三木裕和さん(鳥取大)

「時代を超えた『切なる願い』に答えるために—あの頃の未来にぼくらは立っているのかな—」

◇ 現地企画 障害のある青年たち(エコール神戸卒業生)による新喜劇

◇ 記念講演 赤木和重さん(神戸大)

「障害児教育の魅力を改めて考える～発達理解の視点から～」

学校現場をめぐる厳しい状況が続いています。障害児学級・学校の現場でも例外ではありません。そのような状況ではありますが(だからこそ)、あらためて障害のある子どもとかわる魅力について、これまでの障害児教育の歴史に学びながら、一緒に考えていきましょう。

全体交流会 18:30~

会場：神戸サンボホール (ポートライナー貿易センタービル駅前すぐです)
神戸市中央区浜辺通 5-1-32 TEL: 078-251-3551

今回は講座・分科会を神戸市勤労会館と新長田勤労市民センターの2か所で行います

てんこ盛り講座(1/12) 9:30~11:20

	講座名	講師	会場
1	わくわくどきどき楽しい国語	林 孝司 さん(京 都)	新長田
2	わくわくどきどき楽しい算数	桜井 佳子 さん(東 京)	新長田
3	わくわくどきどき楽しい美術	福家 省造 さん(京 都)	新長田
4	障害の重い子の発達を学ぶ	原田 文孝 さん(兵 庫)	三宮
5	医療的ケアを考える	東京・神奈川などから報告	三宮
6	キャリア教育を考える	木下 博美 さん(京 都)	三宮
7	学校卒業後の学び	河南 勝 さん(兵 庫)	新長田
8	高校における特別支援教育	土方 功 さん(全 教)	三宮
9	改訂学習指導要領を考える	河合 隆平 さん(首都大)	三宮
10	性教育を学ぼう	千住 真理子さん(大 阪)	新長田
11	障害児学級での授業づくり・学級づくり	中川 純一 さん(兵 庫)	新長田
12	健康で働き続けられる職場づくり	齊藤 賢 さん(滋 賀)	三宮
13	集まれ臨時教職員	増賀 正志 さん(大 阪)	三宮
14	定数のしくみを知って、せんせいふやそう! (特別支援学校・特別支援学級編)	山崎 洋介 さん(奈 良)	三宮

フィールドワーク(1/12) 9:00~12:10

阪神・淡路大震災 震災遺構を訪ねるフィールドワーク
(先着定員 30名 入館料等が別途必要です)

講師 谷 充弘さん(兵庫)
吉池次男さん(兵庫)

阪神・淡路大震災から間もなく25年の節目を迎える今回の学習交流集会。去年の東日本大震災のフィールドワークに続き、今年も現地をめぐるフィールドワークを行います。

朝、阪神電車の「春日野道」駅に集合し、「人と防災未来センター」を見学後、電車で移動し、神戸メリケンパークの震災遺構を見学。お昼ごろに現地で解散します。

文化バザール(1/12) 9:30~11:20

講座名		講師	会場
1	子どもが笑顔になるマジック講座	佐藤 比呂二さん(東京)	三宮
2	わくわく楽しい音楽遊び	梅谷 浩子さん(兵庫)	三宮
3	即興新喜劇体験	砂川 一茂さん(兵庫)	三宮

基礎講座(1/12) 12:40~17:00

講座名		講師	会場
前半	発達の視点からの子ども理解	木下 孝司さん(神戸大)	三宮
後半	書くことで気づけた!子どものホントの願い	佐藤 比呂二さん(東京)	三宮

旬の実践分科会(1/12) 12:40~17:00

旬の実践分科会		共同研究者	会場
1・2, 障害児学級での教育実践			
「できることを増やす」「行動を矯正する」ことが障害児学級の仕事ではありません。学級集団を大事にし、その中で対人関係の力を育むこと、子どもが目を輝かせてとりくめる教材や文化的とりくみを用意すること、その2つの視点をもとに学び合いましょう。			
1, 障害児学級での教育実践(小)		大島悦子さん(大阪)	新長田
中島 小鳩(愛知)『「んまと(みんなと)」～晴男(仮名)が友だちを意識するとき～』 元治 智子(兵庫)「仲間と学ぶ」～あこがれて、そしてあこがられる～ 小島 貴子(埼玉)「人への信頼を失っていたとおる君を学級の仲間に」			
2, 障害児学級での教育実践(中)		山下洋児さん(東京)	新長田
河口 信也(大阪)「価値のある発表会を～支援学級の発表会の取り組みの記録～」 金坂 美穂(東京)「絵本をみんなで読んでみたい～『ウエズレーの国』を読んで～」 村田 信代(山口)「5分だけでもやってみない?」			
3, 通常学級の教育実践		宮本郷子さん(龍谷大)	新長田
通常学級にいる発達障害の子どもたちの内面に寄り添い、一人一人が生き生きとした学校生活を送れることを目指した実践を深めていきましょう。			
胡谷 瑞穂(広島)『「認め合い、学び合える学級集団を目指して」 ～38人とかけぬけた高学年の2年間～』 岸上 三重(大阪)「子どもは子ども集団の中で育つ」 濱田 里美(香川)「特別支援学級担任から見た通常学級での特別支援」			
4, 通級指導教室の教育実践		越野和之さん(奈良教育大)	新長田
通常学級の中で困り感を持っている子どもが学校生活の主人公になれるように、通級指導教室でどんな支援をしていったらよいか考え合いましょう。			
遠藤 美由樹(北海道)「通級指導教室にできること」 桜井 梓(大坂)「自身の特性と向き合う高学年の子ども達とともに」 近藤 弘司(埼玉)「初めての通級巡回指導～中学校バージョン」			
5, 視覚障害児の教育実践		江口美和子さん(明星大)	三宮
視覚に障害のある子どもたちは、単一障害から重複障害までさまざまです。幼児教育から専攻科の指導、寄宿舎の生活教育など、幅広い実践を通して視覚障害教育で大切にしたい視点や専門性を深めましょう。			
鈴木ひかり(京都)『「自立」に向けた願いを育てる』 鈴木 英隆(奈良)「学齢期の視覚障害児に育んでいきたい力」 深津 冬惟(埼玉)「中学部の教科の実践」(仮)			

6, 聴覚障害児の教育実践	竹沢清さん (あいち障害者センター)	三宮
障害の早期発見、補聴器性能の向上は、インクルーシブ教育の流れと相まって聴覚障害児の就学に大きな影響を与えています。地域に学ぶ子どもたちの支援や指導のあり方、小規模校における専門性の継承発展と共に実践の改善・工夫、発達保障のとりくみを学び合しましょう。		
諏訪 淑子 (兵 庫)「難聴生徒在籍の高校への支援 ～高校通級を見据えた取り組み～」 近山 良斉 (大 阪)「登校支援(聴覚支援学校)に取り組んで」 堀 恵実 (大 阪)「卒業後の生活をともに考える」		
7, 病弱の子どもたちの教育実践	船田真紀さん(和歌山)	新長田
病院の医療の中で生きる最重度の子ども、病気治療のために院内学級で学ぶ子ども、身体面は健康でも、情緒面の障害のために病弱養護学校で学ぶ子ども・・・。「病弱教育」の対象は本当に多様ですが、「子どもの気持ちを最大限尊重する」ことを大切にしたい教育実践を創造しましょう。		
柳川 美智 (高 知)「院内学級の子どもたちとともに」 長谷川宏敬 (東 京)「発達障害の生徒と寄宿舎生活 ～揺さぶりの初年度から『寄宿舎に入って良かったかな・・・』まで～」		
8, 発達の遅れと授業づくり・教育課程づくり ア) 最重度と言われる子どもたち	河合隆平さん(首都大)	三宮
心の動きが見えにくいとされる最重度と言われる子どもたちの内面をどのように捉え、教育課程を作り、授業を作っていけば良いのか、お互いの実践から学び合しましょう。		
仲 直美 (愛 知)「笑顔や涙の意味すること ～『私の気持ちを分かって』～」 木澤 愛子 (滋 賀)「まじめにふまじめ ～学校、授業にあそびごろを～」 江口凡太郎 (北海道)「ぼくのトラクター、ジョン・ティアー (SRC ウォーカーをトラクターに改造しました)」		
9, 発達の遅れと授業づくり・教育課程づくり イ) ことば獲得期の子どもたち	高木尚さん(日本福祉大)	三宮
自我の芽生えから拡大、言葉を獲得し、イメージを豊かに広げるといふそれぞれの段階において、心に響く文化をどう用意するか、育ち会う集団をどう保障するか等々、人格を豊かに育てていくための授業づくり・教育課程づくりについて考え合しましょう。		
村木 彩乃 (滋 賀)「伝えたい思いが溢れる毎日を～友達と一緒に楽しい！実践づくり～」 岩見 まみ (東 京)「Nさんが望んでいたこと ～自ら関係を広げていく力～」 吉松 薫 (大 阪)「『三びきのやぎのがらがらどん』と1年生 ～おはなしの授業での取り組み～」		
10, 発達の遅れと授業づくり・教育課程づくり ウ) 教科・教科入門の子どもたち	桜井宏明さん(埼玉)	新長田
新学習指導要領は教科の内容に細かく踏み込んで規定していますが、教育は国の求める人材づくりの道具ではありません。子どもの実態に基づいた真の学びとは何か、子ども自身の学ぶ意欲とキラキラ光り輝く表情を引き出す授業づくり・教育課程づくりについて考え合しましょう。		
文珠四郎悦子(大 阪)「ことばの土台を豊かにする授業を ～絵本を使ったことばの学習～」 長友 志航 (滋 賀)「『生活』の授業ってこんなに自由でこんなにおもしろい～子どもと対話し、子どもと共につくる『生活』の授業」		
11, 自閉症・自閉的傾向の子どもたちの授業づくり ・教育課程づくり(小)	三木裕和さん(鳥取大)	三宮
一部を強調した TEACCH や視覚支援。パターンにはまれば一見「うまくいく」ように見える自閉症の子どもたちをまるごととらえ、障害特性を越えた支援のあり方と、一人ひとりの発達する姿を確かめ、参加者のみなさんと深めましょう。		
弘津 弘美 (埼 玉)「仲間の中で仲間とともに育つ」 高村 一也 (青 森)「子どもが主体的に動くこと」 照井 恵理 (滋 賀)「学級集団の中で育つ子どもたち ～Nくんの小学部生活を振り返って～」(仮)		

12, 自閉症・自閉的傾向の子どもたちの授業づくり ・教育課程づくり(中・高)	赤木和重さん(神戸大)	三宮
思春期を迎え、自閉的傾向が強くなったり強度行動障害が顕在化したりして、学校生活を心地よく過ごせない子どもたち。こうした困難を抱える子どもに寄り添い、どう授業を展開したらよいか、どんな学校にしたらよいかを考えていきましょう。		
海野 圭子 (和歌山)「ふたりの育ちあう姿から学んだこと」 西銘 愛 (滋 賀)「感動の毎日!から悩む毎日へ・・・ ～6年ぶりに担任したうさちゃんの実践と、教研からの学び～」		
13, 青年期の課題と授業づくり・教育課程づくり	山崎由可里さん(和歌山大)	三宮
自分を表現するのが苦手、不登校を経験するなど困難な生活経過を経て高等部に入ってくる生徒たちに対して、内面に寄り添い心を開いていく取り組み、教科学習や行事、文化にふれる中で自分のいいところに気づき自分なりの表現方法と自己実現を模索する取り組み。卒業後を見据えた実践などを報告します。		
中野 佳代 (滋 賀)「自分たちでやりたいことを考え、実現する ～行事での取り組みを通して～」 久保田善裕 (奈 良)「自立を支援する社会生活力とは～卒業生の様子から高等部での教育を見直す～」 川端 花子 (北海道)「れいこさんが安心して学校生活を送るために ～見えない微妙な力で支え、つながり合う子どもたち」		
14, 性教育の実践	千住真理子さん(大阪)	新長田
すこやかな発達の証である性の発達と成長を、障害児自身も周囲も喜んで迎えられよう、リアルな実践報告や教材交流を通してともに学び合ひましょう。		
中村 幸恵 (山 口)「からだっていいな」 磯部 浩美 (埼 玉)「こころとからだの学習～1人1人がかけがえのない存在であることを実感して」 星野 英俊 (神奈川)「『昼まで生テレビ～男女交際私の主張!』 実践報告と生徒による「男女交際」をテーマにしたディスカッションの試み」		
15, 保護者との共同・教育条件整備(運動交流)	中内福成さん(障全協)	三宮
保護者とのようにつながり運動を発展させるか、保護者と一緒に運動を進めるにはどうすればよいか、これまで保護者との運動を進めてきた県の報告やその基礎となる民主的な職場づくりと関連させながら今後の運動の発展方向を探りましょう。		
小川 弘樹 (愛 知)「『学校にエアコンをつけて!』一保護者とともに進めた要求運動一」 中村 和彦 (京 都)「『寄宿舎づくりを保護者とともに』 ～未来へつなぎ、充実・発展を～」 西面 友史 (大 阪)「支援学校増設運動のとりくみ」 柿木 伸子 (滋 賀)「保護者とともに歩む ～スマイルの会と共に歩んだ10年とこれから～」		
16, 子どもの生活を考える(寄宿舎)	能勢ゆかりさん(滋賀大)	三宮
社会の情勢とからんで家庭の養育困難や生活基盤が揺らぐなかで、寄宿舎は家庭を支え、子どもたちの成長・発達の一翼を担っています。幅広い方とともに寄宿舎の意義や役割を語り合ひましょう。		
阿部 晃子 (宮 城)「生徒達が主人公である寄宿舎づくりを目指して ～入浴の機会を通じて～」 藤木誠子・長谷川琴美(兵 庫)「生活自立・社会自立をめざして ～卒業後の姿を見据えて～」 今井 毅 (京 都)「ぼく、こんなに色々なこと思ってたんやで Tくんの寄宿舎生活より」		

各種交流会(学級・青年・各県・各ブロック別)1/12分科会終了後に予定

- ・障害児学級交流会 神戸市役所24階 UCC カフェコンフォート
- ・青年交流会 居酒屋さんばち家 サンキタ通り店
- ・各県や各ブロック別交流会は直接各県組織の方へお尋ねください。

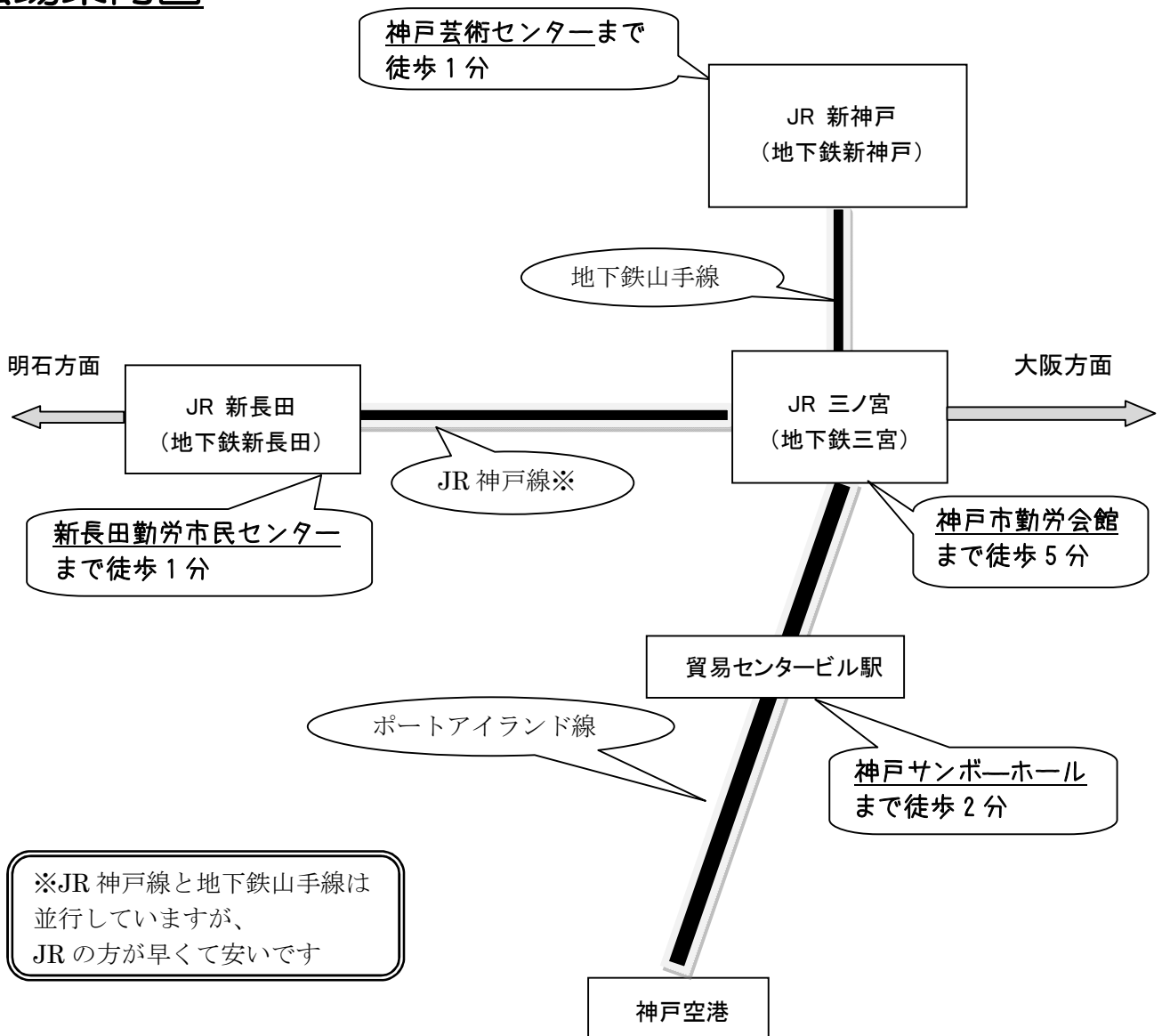


教育フォーラム(1/13) 9:30~12:00

フォーラム名		コーディネーター
1	子どもが安心して過ごせる学校づくり ~どの子ども仲間と育ちあえる場所に~	青木道忠 さん (大阪 元教員)
2	子どもから出発する授業づくり・教育課程づくり の視点から学習指導要領を考える	三木裕和 さん (鳥取大)
3	ゆたかな教育を保護者と 教職員の共同で	佐久美順子さん (設置基準策定をめざす会)
4	災害時の避難と支援の在り方	赤松英知 さん (きょうされん)

※教育フォーラムはすべて三宮の神戸市勤労会館です。

会場案内図



参加のお申し込みについて

1、参加の申し込み方法について

- ※ 所属されている各組合に、裏面の申し込み用紙にてお申し込みください。
- ※ 個人で申し込まれる方は、全国実行委員会に、裏面の申し込み用紙にてお申し込みください。
- ※ 各組織は参加者をまとめ、所定の用紙（各組織に別途送付いたします）にて全国実行委員会までご報告ください。申し込み先は、下記のお問い合わせまでお願いします。
- ※ 全体会、分科会等で手話通訳を希望される方は、申し込みの際にお申し出ください。
- ※ フィールドワークは先着順です。参加申込用紙の備考欄と参加希望書に必ずご記入ください。

2、参加費について

- 集会参加費
全日程・・・・・・・・・・・・ 3,000円
11日もしくは12日のみ・2,000円
教育フォーラムのみ・・・・ 1,000円
学生・保護者・・・・・・・・・・ 500円
- 交流会費（11日）・・・・・・・・・・・・ 6,000円
- 今回の集会はお弁当の販売はありません。会場周辺で各自お願いします。

3、宿泊について

- ※ 宿泊は、各自で確保をお願いします。三宮駅周辺にはホテルがたくさんありますが、繁忙期のため早めの確保をお願いします。

4、交流会（11日）について

- ※ 手配の関係がありますので、最終のお申し込みは12月20日（金）までにご報告ください。
- ※ 12月24日（火）以降のキャンセルはできません。申し訳ありませんが、全額をお支払いいただくこととなりますのでご注意ください。

5、申し込み（報告）の締切について

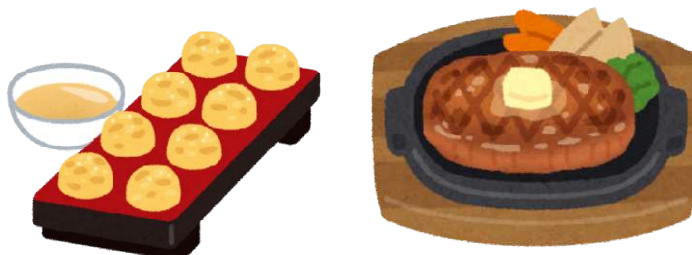
- ※ 12月20日（金）【参加者名簿を作成しますので、可能な限りここまでにご報告ください】
- ※ ただし、集会への参加は当日まで受付いたします。

6、参加費のお支払い

- ※ 集会当日、受付にて申し込み組織・個人ごとにお支払いください。

7、お問い合わせ（全国実行委員会・全教障教部）

- TEL（03）5211-0123 / FAX（03）5211-0124
MAIL a_aoki@educas.jp
担当：佐竹、青木



全国障害児学級・学校学習交流集会 参加申込用紙

申込用紙に記載のうえ、各組織・団体本部にお送りください。
(個人で参加を希望される方は、直接この用紙で下記の全国実行委員会までお送りください)

お名前	所属組織・学校
TEL ※連絡のとれる電話番号をご記入ください。	E-mail
手話通訳の希望	有 無

■ 参加内容 (該当する箇所にお印および金額を記入してください)

	1/11 (土)	1/12 (日)	1/13 (月)	金額	備考
参加日程				円	全 3,000 円、11 日 or 12 日のみ 2,000 円 教育フォーラムのみ 1,000 円、父母等 500 円
全体交流会		—	—	円	6,000 円 (11 日開催)
			合計	円	

参加の申し込み方法について

※ 所属されている各組合に、この申し込み用紙にてお申し込みください。

※ 組合などに所属せず、個人で申し込まれる方は全国実行委員会にこの申し込み用紙にてお申し込みください。申し込み先：FAX (03) 5211-0124

※ 全体会、分科会等で手話通訳を希望される方は、お早目に申し込みの際にお申し出ください。
なお、直前には対応できない場合があります。

参加希望書

震災遺構を訪ねるフィールドワーク		参加申込書 (定員30名 先着順です)	
お名前	性別	所属組織・学校	
TEL ※連絡のとれる電話番号をご記入ください。	E-mail		
その他備考欄			

※学習交流集会の参加費とは別途で、「人と防災未来センター」入館料、移動の電車代がかかります。
※当日(1月12日)朝9:00までに直接、阪神電車「春日野道」駅前に集合してください。
※解散は12:10頃を予定しております。

お問い合わせ (全国実行委員会・全教障害児教育部)

■ TEL (03) 5211-0123 / FAX (03) 5211-0124
MAIL a_aoki@educas.jp 担当：佐竹、青木